

2023 年度第 2 回教育イノベーション大会運営委員会議事録

I. 日 時 令和 6 年 3 月 11 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 Zoom 会議室

II. 出席者 向殿委員長、二瓶委員、井川委員、松山委員、望月委員、今泉委員、寺田委員、
浜委員、原田委員、藤本委員、尾崎トバ伊、木村トバ伊
事務局：井端事務局長、野本

III. 検討事項

1. アンケートを含め、委員から今年度開催の振り返りを行った。

- ・ この時機に生成 AI を取り上げて良かった。どこの大学も情報を希望していた。
- ・ 中身の濃い内容だった。
- ・ ワークショップは、バリエーションを設けても生成 AI は継続しても良いのではないかと。
- ・ 三日目の発表は、質問が少なかった。また、音声合成での説明が気になった。
- ・ 質問をどのように受けるかが、オンラインでの課題と思う。
- ・ 企業では、入社する学生に生成 AI プロンプトが上手である希望を持っている。現状は、大学により、生成 AI 利用の格差がある。
- ・ 生成 AI は、例えば語学での利用など、狙いが付けられれば役に立つと考える。
- ・ 文科省の説明は、前向きな話で良かった。
- ・ 来年度の計画は、生成 AI 対応、学生の振り返りから目標設定のマネジメント、分野横断の学びの仕組みなどの紹介。FD に出席しない教員の参加を促す中身重視の議論や、学生参加 FD による質保証など、考える切っ掛けを与えて、学生の価値観や資質の変化を考える必要がある。
- ・ 分野連携で、学科連携や大学超えての連携の仕組み紹介。
- ・ データサイエンスを文系で取り組むためには FD が必要ではないかと。
- ・ 今年度からは、例えば、聴覚障害を持つ学生などへの合理的配慮が義務化されている。
- ・ 一般入試以外の方法で入学する学生が多くなり、分野で問題解決できる力、基礎力、リメディアルの必要性と、その支援となる。
- ・ 集中力を伸ばす（ケアではなく）仕組みで、簡単ラーニングアナリティクスなどが考えられる。
- ・ 協働学修（作業）の不足は、卒業してから困ることになり、押し付けられないような切っ掛けを与える必要があり、ブレイクアウトルームの利用など工夫できないか。
- ・ 高大接続で、探求学習をあまり行っていない学生があり、考える学修について高校からの連続性を考える必要がある。
- ・ SNS のセキュリティ課題や情報の真偽など、どのように伝えたら良いか、各分野での対応が困難であればチームでの支援を検討したい。
- ・ 60 単位まで ICT 活用授業が認められるなど、多様な受講スタイルがニーズとして求められているなどの意見があった。

2. 三日目発表者募集要項の検討

- ・ 開催要項案をもとに検討し、発表内容に関して、PBL の注を文中に表記、生成 AI を活用した授業を追加することで、開催要項が確認された。